

その形が崩れた。気分が面白くなくてやめる人も出てくる等とは、その先生は失敗と云へるでせう。むしろ傍観の方が成功したかも知れませぬ。自己意識を捨て、無我の世界に入りうる時こそ幼児のよき遊び相手であり友達であるのだと、反省し一考してみました。

## 遊 戯

### 古澤 静子

一つお年が大きくなつた自覺と喜びのこの時を機會に、お遊戯をする態度、見る態度、聴く態度をつくりませう。或時は一齊に、或る時は男兒女兒別に、或ひは脊丈の順に分れて、他の方なちつと見るなもいたしなと思ひます。

寒い時でありますから、軽い運動のものから次第に複雑なものへ、そして成るべく運動量の多いものを選ぶことにいたします。

今月は、新しい年をむかへ、日本の子供であるよろこびを一層感じたこの時、お國のしるしである「日本の旗日の丸の旗」、春場所で男兒の血を湧かせる「お角力」、冬の寒空から落ちてくる「雪」、元氣で可愛い「オサル」の遊戯を取上げてみました。

日本の旗日の丸の旗 日本幼稚園協會發行幼稚園唱歌選集所載  
隊形。全生連手して圓形をつくる。

「日本の旗日の丸の旗」

全生連手して圓周上を右に歩く。日の丸の旗が圓形の中心に高

く離へつてゐるものとして、左上を眺めながら歩く。

「高くてよ高くてよ」

手を離して圓心を向き、二呼間に一拍手と一ホップを行ひ、それを左右の足交互に四回行ふ。元氣よくホップでとぶ。

「朝日の色を赤くそめて」

再び連手して圓周上を左に歩く。始めと同様圓心にある日の丸の旗を仰ぎながら。

「明るい空にひら〜〜と」

「高くてよ」と同じ動作。

「輝く光日の丸の旗」

兩手を上にぐつと伸ばし、足踏みしながら左右に動かす。日の丸の旗が朝日をうけて、はた〜と離へつてゐる様に、胸を張り空を見上げながら、思ひ切り兩手を左右に動かす。

「日本の旗日の丸の旗」

「日本の旗」で、拍手をしながら圓心に進み、

「日の丸の旗」の時に、同様拍手をしながら後退する。

「高くてよ高くてよ」

二呼間に一回拍手と共にホップをしながら（ホップは左右の足交互に、四回する事になる）各自のまわりを一廻りする。最後の「たてよ」の時に止まつて、兩手を一度下ろして萬歳をする。この遊戯に於ては、日の丸の様に、特に綺麗な圓形であるよう注意したい。連手して圓形を作る場合、橢圓形になつたり、圓に凸凹が出来て亂れがちであるから、つないだ手を伸ばし、姿勢をよくして、

體は、行く方向をむく様にして、最初はこの歩き方だけを取扱つてみる。

ホップの際には、上げた脚は、成るべく直角に曲げ、一方の足で元氣よく高くとび上ることにする。

### オサル 繪本唱歌冬の巻所載

二拍子で輕快な動作のものである。

隊形。全生連手して圓形を作る。

「おさるの子どもは鬼(こつこ)」

全生連手し、圓周に沿つて右へ、スキップで進む。この動作も、圓形がくづれない様に、各自手を伸ばしてつなぎ、行く方向をむいて、ピアノに合わせてスキップをする。

「枝から枝へとびまわる」

同じく左へスキップで進む。

「おさるの母さんひなたぼつこ」

全生圓内をむき、お互に隣りの肩に両手をかけて、圓心に進む。

「こつくりこつくり居眠りよ」

各自兩手をはずして胸前で交叉し、その場にしゃがんで二呼間に一回づ、首を左右に振る。

ユキ 繪本唱歌冬の巻所載

二拍子で何時もかけ廻る元氣な動作。

隊形。圓形で行ふ。

「大雪小雪ゆき(こん)」

全生圓周に沿つて右を向き、跣足をしながら落ちてくる雪を受け

る様に、體前に兩手を伸ばして左右交互に上下に動かす。

「お屋根も」

圓内を向き、跣足をして圓心に進みながら、三角のお屋根が出来る様に、左右の手を横から斜上にあげ、兩手の指先を突き合せて三角にする。

「お庭も」

跣足でもその圓形に後退しながら、三角のお屋根の手を再び左右に開いて横に伸ばす。

「雪(こん)」

その場で跣足をしながら、兩手を上にあげ、兩掌をちら／＼振りながら上から下へおろす。

「雀のお宿も」

雀の羽の様に、兩手を横にひろげて軽く上下に振りながら跣足で自分のまわりを一廻りする。

「雪(こん)」

先と同じ様に、又その場で跣足をしながら兩手を上にあげ、雪が降る様に兩掌をちら／＼振りながら上から下におろす。

角力 日本幼稚園協會發行最新作曲幼稚園唱歌集所載

隊形。適當な間隔をおいて二組に分れて向き合ひ、真中に土俵を書き、兩組より一人づ、出て来て、曲に合はせながら、お角力をとる。

「一小節——二小節」兩組より一名づ、威勢よく歩きながら土

俵上に現れる。

「三小節——四小節」二人向き合ひ、兩手を兩股にのせて、元氣よく四股を踏む。

「五小節——八小節」兩方組み合つて、押し合ふ。

「九小節——十小節」兩手をつなぎ、スキップで廻る。

「十一小節——十二小節」又向き合つて押し合ひをする隊形になり、始めの四呼間前進、次の四呼間後退で、交互に前進後退する。

「十三小節——十四小節」最初の様に、二組に分れて、元の位置へ戻る。

## 観 察

### 清 水 光 子

家具調度 寒い日が多くなるとどうしてもおへや遊びが多くなる。寒さに負けずに出来るだけ戸外へ連れ出すやうにするのだけだ。しかし一方落付いた室内遊びを樂しむにはまことにいゝ頃であり、又今まで氣のつかなかつたおへやのものにしつとりとした親しみをもつ機會で、そういうたものを殊更觀察らしくなく取扱つてみたいと思ふ。例へば銘々たんす(幼児のもの)、戸棚、机、椅子、衝立、ピアノ、オルガン等、そしてこれを通して銘々の家にある家具のことを話したりなどする。自由畫におへやの中をかいてみるのもよいし、製作としてあき箱におへやをつくつて遊ぶのもよい、子ども達の抽斗と先生の抽斗とのちがひをみたり(形や大きさ、ひき手など)机や椅子の高さを較べてみたりするの

も面白い。もつと段々みてゆくなら種々な手近で面白い觀察が出来るし同時に机の上にのらないとか椅子の取扱ひ方抽斗の整理整頓などの訓練をする事も出来るであらう。

こよみや額なども室にあるもの、一つとしてみてゆく。日めくりのこよみなら毎日めくるとお歸りの時なり朝なりきめてすることの一つにしてもよい。この頃は少しづつ字への興味が盛になる頃であるから簡単なこよみを合同で繪を入れたりして作るのも年の始めの仕事として面白い。曜日の順ももう判つてもよい頃ではないだらうか。この他に室のものとして時計とか寒暖計とか何かの表のやうなものも機會を捉へて教へるといふ風でなく一しよにみるといふやうにしてみせるやうにし度い。

店のいろ／＼誘導保育で紙箱の家をこしらへるについてなされる觀察である。この頃のやうに物資が配給制度になると大分店の形がちがつて来たし、様子もちがつて来た。いつも時と處に即應して、出来れば銘々のこしらへる家をみに行つたりし度いものである。保母の方がかへつて知らずにあるやうなこともある位に子ども達はみてゐる。店を作り乍らぜんなものを買つてゐて、ぜんな風になつてゐるか話し合ひ、わからない處は「よくみて來ませうね」と言つてたしかめる。店のいろ／＼などいふ繪本は參考としてならみるのもよいであらう。なるべく子供達のみるやうな子ども達の町の、村の、お店を對象にし度い。

寒 一年中で一番今が寒い時だといふことを知らせ、話す機會は多い此頃である。朝お庭中まつ白な霜、土のやはらかかつた所